

製品名: AIP4 (リン酸化Tyr420) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04206**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ITCH
別名	ITCH; E3 ubiquitin-protein ligase Itchy homolog; Itch; Atrophin-1-interacting protein 4; AIP4; NFE2-associated polypeptide 1; NAPP1
遺伝子 ID	83737.0
SwissProt ID	Q96J02
免疫原	抗血清は、ヒト ITCH 由来の Tyr420 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 386-435

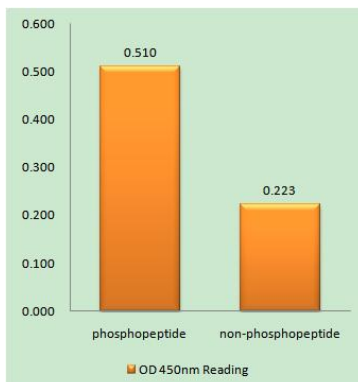
背景

かゆみ性 E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ (ITCH) ホモサピエンス この遺伝子は、HECT ドメイン E3 ユビキチンリガーゼの Nedd4 ファミリーのメンバーをコードします。HECT ドメイン E3 ユビキチンリガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からタンパク質基質へユビキチンを転移させ、特定のタンパク質をリソソーム分解に誘導します。コードされているタンパク質は、赤血球系およびリンパ系細胞の分化や免疫応答の調節など、複数の細胞プロセスにおいて役割を果たします。この遺伝子の変異は、症候群性多系統自己免疫疾患の原因となります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。 [RefSeq 提供、2012 年 3 月],機能: E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ。E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、標的基質に直接転移します。いくつかの転写因子の転写活性を調節し、免疫応答の調節において重要な役割を果たしていると考えられます。経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。PTM: チロシン残基がリン酸化されます。類似性: 1 つの C2 ドメインを含みます。類似性: 1 つの HECT (E6AP 型 E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ) ドメインを含みます。類似性: 4 つの WW ドメインを含みます。サブユニット: WW ドメインを介して DRPLA、NFE2、CBLC と相互作用します。エプスタイン・バーウイルス LMP2A と相互作用する。NOTCH1、OCLN、JUN、JUNB と相互作用する。in vitro で NDFIP1 と相互作用する (相同性による)。ARHGEF7 と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。、

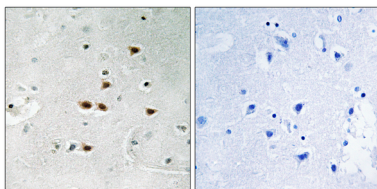
研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解;エンドサイトーシス;

画像データ



ITCH (リン酸化 Tyr420) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



ITCH (リン酸化 Tyr420) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。